

赤石連峰を作る地層（地学散歩(16)）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 鎮男 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025630

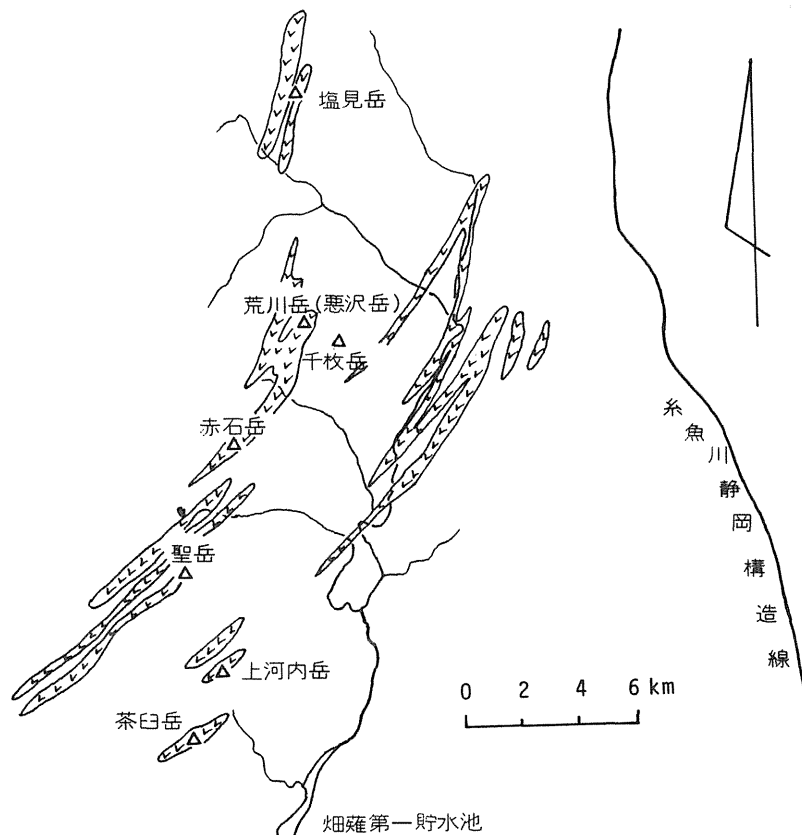
赤石連峰を作る地層

地学散歩 (16)

吉田 鎮 男*

赤石山脈を作っている地層が主に白亜系の四万十層群であることは良く知られていることである。しかしその高峰が、地質構造および浸蝕に強い岩石と密接に関係しているということには気がついていない人が多いのではあるまいか。すなわち、悪沢岳(荒川岳、3,146 m)をはじめとして、塩見、赤石、聖、上河内、茶臼の峻峰は全て玄武岩(時折チャートを伴う)から成っている。この玄武岩層は四万十層群の下位の層準にあり、しゅう曲の背斜部に沿って露出している。玄武岩の下位には千枚岩質の黒色頁岩があり、これが千枚岳を作っている地層である。これらのことは主として徳山明、木村敏雄によって明らかにされ、静岡県地質図(20万分の1、1973)に示されている。下図に示した玄武岩層の分布は主にこの地質図から写したものである。これらの玄武岩の中には、海底で流出したことを示す枕状溶岩も含まれている。写真に示した枕状溶岩は中川根から北西に入る大札山林道沿い、大札山の北西1 kmに露出するもので、上述の玄武岩と同層準の溶岩である。

峰々の色や形が地質と密接にかかわっていることを知って山に登るのも楽しいものである。地学“散歩”というわけにはゆくまいが、これらの赤石連峰は静岡市内なのだからそう遠いわけでもあるまい。



* 静岡大学理学部地球科学教室



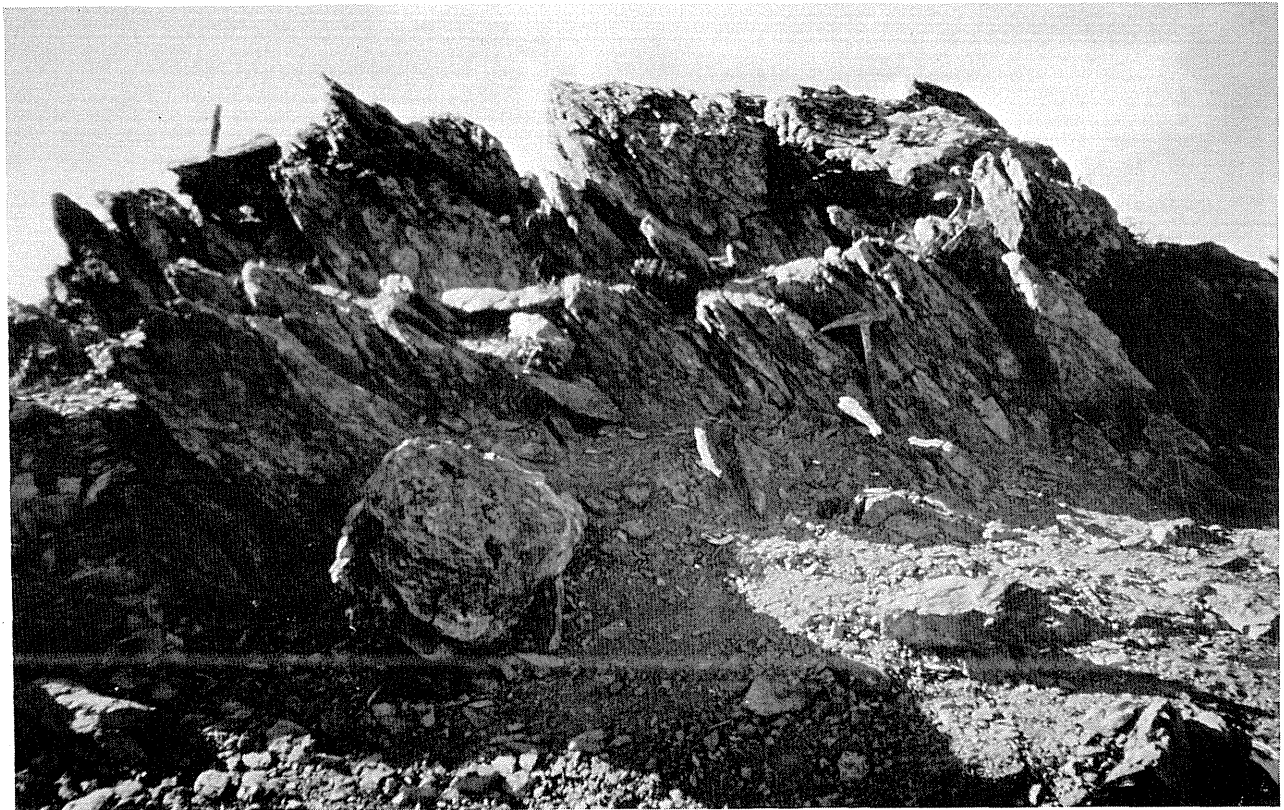
1. 駒ヶ根より南東方に望まれる赤石山脈の峻峰。左から，悪沢，赤石，聖，上河内，茶臼，光岳



2. 悪沢岳（荒川岳）山頂付近の赤色～緑色玄武岩の岩塊。風化や浸食に強いことがわかる。



3. 枕状溶岩（大札山林道）



4. 千枚岳頂上の千枚岩質黒色頁岩。千枚岩質黒色頁岩の層理が、千枚岩質黒色頁岩の層理と一致している。